

河川土工マニュアル（平成 21 年 4 月版）P108 表 3.2.2 において、誤りがありましたので以下の通り訂正いたします。

正					誤						
表3.2.2 軟弱地盤対策工の種類と効果(続き) <small>(道路土工:軟弱地盤対策工指針1986を一部改変)</small>					表3.2.2 軟弱地盤対策工の種類と効果(続き) <small>(道路土工:軟弱地盤対策工指針1986を一部改変)</small>						
工法		工法の説明		主効果	二次効果	工法		工法の説明		主効果	二次効果
緩速載荷工法	漸増載荷工法	盛土の施工に時間をかけてゆっくり立ち上げる。圧密による強度増加が期待できるので、短時間に盛土した場合に安定が保たれない場合でも、安全に盛土できることとなる。盛土の立ち上りを漸増していくか、一次盛土を休止して地盤の強度が増加してからまた立ち上げるなどといった載荷のやり方で、名称が分れる。 パーティカルドレーンなどの他の工法と併用されることが多い。		C	-	緩速載荷工法	漸増載荷工法	盛土の施工に時間をかけてゆっくり立ち上げる。圧密による強度増加が期待できるので、短時間に盛土した場合に安定が保たれない場合でも、安全に盛土できることとなる。盛土の立ち上りを漸増していくか、一次盛土を休止して地盤の強度が増加してからまた立ち上げるなどといった載荷のやり方で、名称が分れる。 パーティカルドレーンなどの他の工法と併用されることが多い。		C	-
	段階載荷工法						段階載荷工法				
載荷重工法	盛土荷重載荷工法 地下水低下工法	盛土や構造物の計画されている地盤にあらかじめ荷重をかけて沈下を促進した後、あらためて計画された構造物を造り、構造物の沈下を軽減させる。積荷重としては盛土が一般的であるが水あるいはウェルポイントで地下水を低下させることによって増加した有効応力を利用する工法などもある。		A	D	載荷重工法	掘削置換工法	盛土や構造物の計画されている地盤にあらかじめ荷重をかけて沈下を促進した後、あらためて計画された構造物を造り、構造物の沈下を軽減させる。積荷重としては盛土が一般的であるが水あるいはウェルポイントで地下水を低下させることによって増加した有効応力を利用する工法などもある。		A	D
構造物工法	矢板工法	盛土側方の地盤に矢板を打設して地盤の側方変位を減じて安定性を高める。それによって周辺地盤の膨れあがりや沈下の影響も少なくする。		C E		構造物工法	矢板工法	盛土側方の地盤に矢板を打設して地盤の側方変位を減じて安定性を高める。それによって周辺地盤の膨れあがりや沈下の影響も少なくする。		C E	
	くい工法	木くいや既製ぐいを利用して沈下、せん断変形の抑制を図るもので、通常はくい頭交互を連結して効果を高める。		B C			くい工法	木くいや既製ぐいを利用して沈下、せん断変形の抑制を図るもので、通常はくい頭交互を連結して効果を高める。		B C	
A : 圧密沈下の促進:地盤の沈下を促進して、有害な残留沈下量を少なくする。 B : 全沈下量の減少:地盤の沈下そのものを少なくする。 C : せん断変形の抑制:盛土によって周辺の地盤が膨れ上がった、側方移動したりすることを抑制する。 D : 強度増加の促進:地盤の強度を増加させることによって、安定を図る。 E : すべり抵抗の増加:盛土形状を変えたり地盤の一部を置き換えることによって、すべり抵抗を増加し安定を図る。					A : 圧密沈下の促進:地盤の沈下を促進して、有害な残留沈下量を少なくする。 B : 全沈下量の減少:地盤の沈下そのものを少なくする。 C : せん断変形の抑制:盛土によって周辺の地盤が膨れ上がった、側方移動したりすることを抑制する。 D : 強度増加の促進:地盤の強度を増加させることによって、安定を図る。 E : すべり抵抗の増加:盛土形状を変えたり地盤の一部を置き換えることによって、すべり抵抗を増加し安定を図る。						

お手数おかけし大変申し訳ありませんが、修正したダウンロード版を公開いたしますので、そちらをご活用いただきますよう、お願いいたします。